

仲間との関わり合いの中で考えを深め、 古典に親しむ学習指導の工夫

（実践者）大上 航太

1 研究テーマ設定の理由

昨年度の取組では、古典作品を扱った学習におけるパフォーマンス課題や、小集団で力を合わせ、お互いのよさを認め合いながら課題を協同的に解決する場を効果的に設定するとともに、主張と事実、理由づけ（説明）を明確にしながら筋道を立てて考えたり表現したりする意識を持たせることで、一人一人の考えを深めることができた。そして、そのことが古典の魅力を味わわせ、親しませることにつながった。

今年度は、昨年度の成果を継承し、小集団で力を合わせ、お互いのよさを認め合いながら課題を解決する協同の場の効果的な設定と、筋道を立てて考えたり表現したりする論理的思考を課題の解決のために生徒に発揮させることを特に意識して授業実践を行っていくことを目指し、本研究テーマを設定した。

2 研究の内容及び方法

(1) 生徒の実態把握

(2) 協同の学び合いの中で考えを深める学習指導の工夫

目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を生かすことができるように、単元を通して持続できる課題意識を持たせる（パフォーマンス課題の設定）とともに、言語活動を単元の中で効果的に位置付ける。また、主張・事実・理由づけ（説明）を意識して考えたり記述できたりするとともに、自分の考えの変化や他者との関わりについて振り返ることができるワークシートなどの作成を行う。そのことで、一人一人の考えを論理的かつ着実に深め、自分が成長できたという実感を持たせる。

(3) 生徒の活動の様子やワークシート等の分析

以上のことを通して、指導の工夫を行い、その有効性を考察するとともに、そこで得た成果や課題を以後の授業実践に生かしていくこととする。

3 研究の実際

(1) 生徒の実態

本学級の生徒（40名）は、昨年度『平家物語』の魅力を解説する文章を書こう」という単元において「扇的」の魅力を解説する文章（800字程度）を書く活動を行った。その文章について約8割の生徒が、「主張が文章中の表現を基に説明されたものだと言える」かつ「魅力がとても伝わってくる」と答えている（相互評価）。多くの生徒が、主張・事実・理由づけ（説明）を筋道立てて記述することができており、そのことが平家物語を深く読み取り、その魅力を味わうことにつながった。「有名な古典研究者が中学生雑誌に載せる仕事」というパフォーマンス課題の設定により、単元を通して意欲を持って課題を解決しようとする姿や、お互いの解説文をより良いものにするために積極的に小集団で協力する姿勢につながった反面、客観的に魅力を捉えようとしすぎた傾向がある。自分なりの解釈や判断（理由づけ）をより大事にしながら古典の魅力

に迫れるような教師の働きかけや、パフォーマンス課題設定の工夫が必要である。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

論理的に思考し表現する力を高めるためには、主張、事実、理由づけを意識し、筋道を立てて考えることが必要だと考えた。そこで、文章を読み取り自分の考えを表現する際には、事実となる本文中の表現を捉えさせ、そこから自分の考えにつなぐ説明を教師側が意識して求めることにした。また、ワークシートを作成する際も、本文中の表現を基に説明を加えながら自分の考えを記述することができるように工夫することとした。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(7) 単元名

「百人一首」の魅力を附小の6年生に解説しよう

(4) 単元目標

「百人一首」の魅力を小学6年生に解説する文章を和歌の表現を引用しながら書くことで、和歌の世界に親しむ。

【本質的な問い】

古典作品（和歌）の魅力を味わうにはどうすれば良いか。

【永続的な理解】

古典作品（和歌）に表れている作者の心情などを和歌の中の言葉を基に想像し、古典作品に表れているものの見方や考え方に触れ、その価値に気付くことが大切である。

(ウ) 評価目標と評価方法

評価目標	評価方法
①和歌の魅力を解説する文章を書くことで、古典の世界に親しむとともに、交流活動を進んで行い、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。 (関心・意欲・態度)	◎パフォーマンス課題 「附属小学校では百人一首の暗唱やかきた取りを行っているそうですが、歌そのものの内容や魅力についてはあまり詳しく知らないそうです。先輩として和歌の魅力を解説する文章を書き、附小の6年生に読んでもらい、和歌の魅力を伝えましょう。」 (評価目標の①②③) ○小集団活動の観察 (評価目標の①) ○ワークシートの記述分析 (評価目標の①②③)
②和歌を読むことを通して、作者の心情や情景などについて考え、自分の考えを持っている。 (読むこと)	
③和歌の表現を引用しながらその魅力を解説する文章を書き、古典の世界に親しんでいる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	

(エ) ルーブリック

	「百人一首」の魅力の説明は筋道が通っているか。	「百人一首」の魅力が伝わるものか。
A	○魅力が歌の表現を基に説明されたものと言える。 ○説明が分かりやすく納得させられるものである。	○取り上げている魅力の内容や例、たとえば小学6年生の興味を引くものである。 ○表現の仕方に工夫が見られる。
B	○魅力が歌の表現を基に説明されたものと言える。	○取り上げている魅力の内容や例、たとえば小学6年生の興味を引くものである。
C	○魅力が歌の表現を基に説明されたものとは言えない。または、勝手な解釈に思える。	○取り上げている魅力の内容や例、たとえば小学6年生の興味を引くものではない。または、内容が難しすぎて分かりにくい。

(才) 指導計画（全 6 時間）

学習内容	◇評価規準（観点）	時間
学習の見通しを持つ。 ○学習内容と単元を通しての目標を確認する。 ○「百人一首」について知る。	◇「百人一首」の中のいくつかの歌を音読することで、古典の世界に興味を持つ。 （関心・意欲・態度）	1
「百人一首」の魅力を解説する文章を書こう。 ○和歌を選び、今後の活動の見通しを立てる。 ○和歌を読み、作者の心情や情景などについて考える。 ○解説文の下書きを書く。 ○仲間同士で文章の下書きについてアドバイスをし合う。 ○話し合ったことを基に課題の文章を書く。	◇和歌に詠まれた作者の心情や情景などについて考え、和歌の魅力について自分の意見を持っている。 （読むこと） ◇書いた文章をお互いに読み合い、進んで意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 （関心・意欲・態度） ◇和歌に詠まれた作者の心情や情景、和歌の魅力などについて自分の考えを広げたり深めたりしている。 （読むこと） ◇和歌の表現を引用しながら作者の心情や情景などを想像し、和歌の魅力についての解説文を書いている。 （伝統的な言語文化）	4
お互いの解説文を読み合おう。 ○お互いが書いた文章を相互評価する。	◇自分たちが書いた解説文について小学生が書いた感想やコメント、他の生徒の書いた解説文を読んで、和歌の世界に親しんでいる。 （伝統的な言語文化）	1

今回扱った和歌は「百人一首」である。鎌倉時代に藤原定家が小倉山の山荘で選んだとされる「小倉百人一首」は、日本人に最も親しまれている和歌集と言っても良く、歌に表された作者の心情は、時代を超えて現代の私たちの心を打つものである。

本単元では、「『百人一首』の魅力を小学6年生に解説しよう」という目標を設定することで、主体的に和歌の世界に触れさせ、和歌の表現を引用しながらその魅力を小学生に解説する文章を書かせた。また、文章について、小集団で話し合ったりアドバイスしたりする活動を取り入れることで、筋道を立てて考えたり表現したりする力を発揮させながら、仲間と協力して課題を解決する力を育てるとともに、多様な価値観や考え方を認め、生徒自身の考えを深めさせた。

本単元の目標（「百人一首」の魅力を小学6年生に解説する文章を、和歌の表現を引用しながら書くことで、和歌の世界に親しむ）を達成するために、次のことに留意して指導した。

一つ目は、パフォーマンス課題の工夫である。生徒に単元を通して持続する現実的な課題意識を持たせることで、進んで和歌に親しむことができるようにした。

二つ目は、課題解決のために協力して意見を出し合う「きょうどう」の学びを発揮させる場を設定することである。今回は選んだ和歌の魅力を確かめ合ったり、和歌の魅力を伝える文章がよく分かるものであるか仲間同士で話し合ったり、主張と事実、理由づけ（説明）のつじつまが合っているか指摘し合ったりする活動を取り入れた。

三つ目はワークシートの工夫や付箋紙の活用である。和歌から読み取れることなどについて自

分が考えたこと（主張）、和歌の表現（事実）、和歌の解釈や、和歌の表現を魅力につなげるための説明（理由づけ）を、整理して筋道立てて文章に表すことができるようにするとともに、話合いの際、付箋紙を利用しながら良いところやアドバイスを指摘させ合うことで、課題を解決し考えを深めさせることに役立てた。

（カ） 第4時の指導（4／6時間）

○主題 「百人一首」の魅力を解説する文章の下書きについてお互いにアドバイスをしよう

○ねらい

- ・書いた文章をお互いに読み合い、進んで意見を述べたり助言をしたりすることができる。
- ・相手の助言などを通して、和歌に表れている作者の心情や情景、魅力について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

○展開

学習活動(形態)	時間	○教師の働きかけ ・生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価(方法)
1 本時の学習課題を確認する。 (一斉)	5	○班で協力しながらお互いの文章を見直すことで、「百人一首」の魅力がよく分かる文章にしよう。	○小集団で積極的に話合いが行えるように学習課題を明示した。
2 書いた文章について交流する。 (小集団) ↓ (全体)	25	書いた内容についてみんなで交流しよう。 ・和歌の意味をきちんと理解して書けているので良い。 ・当時の時代背景を示しながら示すことで魅力がよく伝わってくる。 ・小学生が身近に感じやすい具体例を挙げればより伝わりやすくなると思う。 ・話の流れが分かりづらい部分があったので説明を加えると良い。	○自分の考えをよりよいものにするために小集団で交流させた。その際、付箋紙を活用させた。 ○論理的に思考し表現する力が発揮されるよう、自分の意見を述べる際には具体的な表現を挙げながら発言するよう促した。 ◇付箋紙を使いながら相手への助言などを積極的に行っている。 (観察・ワークシートの記述分析)
3 交流したことを基に自分の表現を見直す。(個人)	10	○自分の表現を見直そう。 ・まずは相手の興味を引くことが大事だな。 ・身近に感じられる具体例を入れよう。	◇相手の助言を基に自分の表現を見直し、和歌から読み取れる心情や情景、和歌の魅力などについて考えを広げている。 (観察・ワークシートの記述分析)
4 本時のまとめと次時の活動内容の確認を行う。 (個人) ↓ (一斉)	10	○交流した成果を振り返ろう。 ・魅力を説明するといっても様々な表現の仕方があるのだな。 ・自分では考えてもなかったことを話合いで知ることができた。 ○今日の活動を基に次の時間に清書を書こう。 ・良かった点と課題を挙げてもらったので、清書をどう書けば良いかははっきりしたな。	○本時の振り返りをワークシートに記述させることで、交流を行ったことによる成果を確認させた。
授業研究の視点		○付箋紙を使いながら話合いを行わせたことは、自分の考えを広げたり深めたりすることや、お互いの良さを発見させ自己の肯定感を高めることにつながったか。 ○百人一首の魅力を、事実（和歌の表現）・理由づけ（解釈、説明）を意識しながら表現させたことは、作者の心情や情景、和歌の魅力について自分の考えを持たせるのに効果的だったか。	

イ 生徒の学びの実際

パフォーマンス課題に対する生徒の解説文をループリックと照らし合わせた結果、「『百人一首』の魅力の説明は筋道が通っているか。」については、Aが36人（92％）、Bが3人（8％）、Cが0人（0％）であった。また「『百人一首』の魅力が伝わるものか。」については、Aが36人（92％）、Bが2人（5％）、Cが1人（3％）であった。

次に、第4時の振り返りで生徒が答えた（記述した）内容の主なものを次に挙げる。

【主張（魅力）、事実（文章中の表現）、理由づけ（説明）を意識して文章を読んだり書いたりできたか。】 よくできた 18人 できた 13人 あまりできなかった 1人 全くできなかった 0人
【主張・事実・説明を意識して話し合うことができた。】 よくできた 25人 できた 7人 あまりできなかった 0人 全くできなかった 0人
【友達と交流してよかったことや学んだこと。（自由記述）】 ○自分の文章を相手に伝えるためには相手の興味を引くことが大事である。 ○友達の文章を読んで身近な具体例を使っている方が想像しやすく魅力が生き生きと伝わってくるのが分かった。 ○友達の文章を読んで自分も知らなかった歌の魅力や意味を知ることができた。新たな発見があったので良かった。 ○客観的なアドバイスをもらえたので良かった。 ○自分が選んでいなかった歌の解説にも自分の歌に取り入れられる部分があったのでとても参考になった。 ○少し分かりづらい部分を指摘してくれて、どのように改善したら良いのかがよく分かった。また、発表を出した良いところの共通点として身近な具体例を挙げる点も取り入れようと思った。 ○私は風景に関する歌を選んでいたので具体例を挙げるのは難しいが、相手にイメージしてもらう手段があることに気付けた。文章に関しては「構成は良い」と言われたので次回調整して臨みたい。 ○友達の歌の説明を聞いて、自分が考えていたこととは違う考えがたくさんあって参考になった。みんなのアドバイスを生かしてより魅力的な文章にしたい。 ○私は歌の意味について調べたことをそのまま書いていたが、友達の文章を見ると自分の意見がより伝わるように、自分で意味をひもといてからくだいた言い方で書いていた。参考にして自分の文章を直したい。 ○全体で友達の発表でもあったように、相手に想像させることが大切だと思った。 ○この文章で大事なことは対象が小学生であるということだ。そのために和歌という遠いものを身近なたとえを用いることで小学生に近づけることが大切であることが分かった。 ○今日の授業で学んだ大事なことの一つ目は作者の思いや考えをどれだけ細かく読み取れるかということ、もう一つは読み手に親近感を与える文章づくりだ。どちらも自分の考えを理解してもらうために必要である。 ○お互い違う百人一首をえらんでいたが共通する部分もあった。また、自分の良かった点と課題を挙げてもらったので清書をどのように書けば良いかははっきりした。 ○自分が魅力だと思っていたことが友達と違っていて本当の魅力は何かと考えさせられた。文章に自信が持てなかったが付箋にいいところが書かれてあって嬉しかった。 ○もっとこうすればよかったということがたくさん出てきた。友達のアドバイスで自分が不安に思っていたことの改善点が見つけられたし、友達にアドバイスすることによって自分のこんな表現いいな、とか、こうしたいと思うことができた。 ○友達に読んでもらい改善点を理由づけて言ってくれたので納得することができた。次はよりよい文章が書けると思う。自分の表現の良いところもさらに良くしていきたい。 ○読んでいてオーッとなる文章にはどれも共通点があった。自分の文章に足りないものをしっかり付け足して本番の文章ではみんなが納得できるような文章を書きたい。特に具体例を出して親近感を出すことを意識したい。

ウ 考察

パフォーマンス課題の設定により、単元を通して意欲を持って課題を解決しようとする生徒の姿につながった。また、お互いの解説文をよりよいものにするために積極的に小集団で協力する姿勢も伺えた。特に小学生に自分たちの解説文を読んでもらうという設定は生徒に相手意識を持たせる上で大変効果的であった。

お互いが考えた和歌の魅力を確認め合ったり、和歌の魅力を伝える文章が小学生によく分かるものであるか話し合ったり、主張と事実、理由づけ（説明）のつじつまが合っているか指摘し合ったりする活動を取り入れることが、多様な考えに触れ自分の考えを広げさせることにつながった。また、相手を認める意識を持たせたり、あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感を持たせたりしながら読みを深めさせることができた。

解説文を書くためのワークシートの作成を行った際、百人一首の魅力、事実（歌の表現や背景など）、理由づけ（事実から百人一首の魅力につなげる説明）を踏まえて書かせるようにした。それにより、主張、事実、理由づけを意識して使い、筋道立てて自分の考えを表現することにつながった。特に小学6年生に伝えるという相手意識を持たせることにより、理由づけ（説明）をより分かりやすく丁寧に考えようとする姿勢につながった。また、「良いところ（緑）」「アドバイス（黄）」2色の付箋を交流する際に活用したが、付箋に記述する内容を具体的な点を挙げて書くことができていた。そのことが交流活動を充実させることにつながった。さらに、新たな発見を通して相手を認める意識を持たせたり、あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感を持たせたりすることができた。

4 成果と課題（○成果につながること ●課題につながること）

- パフォーマンス課題を、教材や生徒の実生活に合ったものにする事で生徒の課題意識を継続して持たせるとともに、相手意識を持って文章を考える態度につながった。
- 主張、事実、理由づけを意識し、筋道を立てて考えさせる機会を意識して設けてきたことで、論理的に思考し表現する力を高めるとともに、その力を発揮させて一人一人の考えを論理的かつ着実に深めることができた。それが古典に親しむことにつながった。
- 小集団で力を合わせお互いのよさを認め合いながら課題を協同的に解決する場を設定したことで、相手を認める意識を持ったり、あるいは相手に認めてもらい自己肯定感を持ったりしながら課題解決に取り組ませることができた。
- ワークシートや付箋を活用したことは協同の学びの手助けになったが、一人一人が書く時間や内容の差についても考慮し、特に、考えを表現するのに時間を要する生徒に対する支援について考える必要がある。

「百人一首の魅力伝えよう」 ワークシート2（本番用）

三年 D組 番 ()

1 どんな和歌か、簡単にメモしよう（歌の内容・作者・背景など）

紀友則 春の日のけしき 散る花の散るる 紀友則

この世には春の日のけしき 散る花の散るる 紀友則

「おちついた場所」の中に「いさやが散るる」とある。これは、春の日のけしき 散る花の散るる 紀友則

2 1のメモをもとに歌の魅力を考えよう。

ずばり、この歌の魅力は――

事実 和歌の表現・背景

事実を魅力につなげるための説明 解説

「人生と桜の運命を重ね合わせている」ということをもうちょっと詳しく書いてほしいと思う

読者に呼びかけるような言い方をしたいですね！

読者は人主体に書けていていいと思います。

「力の実さの意味」がもしかると、小気は分らない、おもしろいよ。

話の流れがきちんと書いて読めます。

より敬体（です。ます）

図1 第3時に書いた解説文を第4時で交流したもの付箋に良いところやアドバイスを書き、それを基に小集団で交流した。